

在籍校名 大牟田市立上内小学校
職・氏名 教諭 宮島 翔平

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 目標に向かって挑戦し続ける児童を育てる学級活動（3）の指導
－6年間のキャリア発達を見通す題材設定を通して－

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

近年、児童が育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化により、児童自らの将来の捉え方、心身の発達にも影響を与え始めている。このような背景の中、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるためのキャリア教育の充実への期待が高まっている。在籍校は、小規模校の特性を生かして、児童一人一人に活躍の場を設けることや異学年交流を通して、素直で明るい児童の育成に励んでいる。一方で、失敗を恐れたり諦めたりする傾向、不登校傾向にある児童も見られるようになってきた。本研究対象の第5学年で行った実態調査で、失敗を恐れて挑戦できない児童が多いこと、活動や行事に目的をもって取り組んだり自分が目指す姿を考えたりすることに課題があることが分かった。その要因として2点挙げる。1点は、様々な活動に対する目的意識を十分にもたせることができず、自分の成長を実感させることができなかつたことである。2点は、振り返りの時間を十分に確保しておらず、実践が単発的に終わってしまい、各教科等や学級活動、各学年前後の指導のつながりを意識した指導が十分にできていなかったことである。以上の課題を解決するために、児童一人一人が目標に向かって挑戦し続ける態度を育成していきたいと考え、本主題を設定した。

イ 研究の目的

小学校第5学年特別活動の学級活動（3）の学習指導において、自分の目標に向かって挑戦し続ける児童を育てるために、6年間のキャリア発達を見通す題材設定の有効性を究明する。

ウ 研究の仮説

小学校第5学年特別活動の学級活動（3）の学習指導において、6年間のキャリア発達を見通す題材設定をもとに、問題意識が持続する学習過程を用いて授業を行えば、自分の目標に向かって挑戦し続ける児童が育つであろう。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明（図1）

(ア) 主題について

本研究における「目標」とは、学級目標を基にして考えた1年後の目指す自分像と、その自分像を基に考えた各行事や活動における「このように成長したい」という姿とする。「挑戦」とは、自分の役割を果たす活動やリーダーシップを発揮する活動などにおいて、やってみたい新しいことに取り組んだ

り達成したい課題に取り組んだりすることである。また、「挑戦し続ける」とは、苦手なことや困難なことでも諦めずに取り組んだり意思決定した目標を付加・修正してさらに自分を高めたりすることである。「目標に向かって挑戦し続ける児童」とは、目指す自分の姿に向けて前向きな思いをもって継続して取り組む児童のことである。そこで、本研究で目指す児童像を次の三つの姿で捉える。

- 目指す自分の姿に必要な役割や態度を理解し、目指す姿に向けての行動の仕方を身に付けている児童 【知識・技能】
- 自分のよさや伸ばしたいところを見つけ、自分に合った具体的な目標を意思決定している児童 【思考・判断・表現】
- 自分の目標に向けて日々の振り返りを生かして、他者のよさを伝えたり意見を取り入れたりしながら粘り強く取り組む児童 【主体的に学習に取り組む態度】

(イ) 副題について

「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度を身に付けることである。

「6年間のキャリア発達」とは、小学校発達段階における、社会参画や自己実現に必要な能力や態度を身に付けていくことである。小学校学習指導要領総則において、特別活動が学校教育

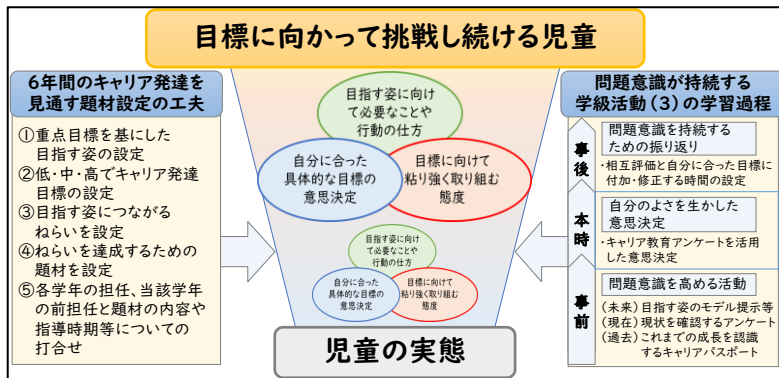


図1 研究構想図

全体を通して行うキャリア教育の要となることが示された。特に、小学校の学級活動に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに設けられたことで、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になった。これらのことから、これからの学びや自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていき、将来に向けて一人一人の主体的な意思決定を大切にする学級活動(3)の題材設定を行うことは、基礎的・汎用的能力の育成においても意義のあるものといえる。また、題材を一覧表として示すことにより、6年間の発達の特質を踏まえた系統的な指導を俯瞰して見ることができる。

イ 研究の内容

(7) 6年間のキャリア発達を見通す学級活動(3)の題材設定

題材設定では、特別活動やキャリア教育の全体計画や目標を基に、学級活動(3)の題材を各教科等との関連(表1)、題材のつながり、実施時期、6年間を見通した各学年の系統性などを踏まえて考える。児童の目指す姿や身に付けさせたい力を設定し、系統的な指導を展開できるようにする。

題材一覧表の作成にあたり、まず、本校の重点目標「目標に向かって意欲的に挑戦し、共に高め合う児童の育成」を基に、学校が重視する基礎的・汎用的能力である「キャリアプランニング能力」と「自己理解・自己管理能力」で整理してキャリア発達目標を設定した。次に、低・中・高学年で目指す姿を設定した。そして、目指す姿につながるねらいを設定し、その題材として内容ア・イ・ウをそれぞれ2つずつ、合計6つの題材を設定した。特に、「内容ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」は学年の最初と最後に位置付け、1年間を見通しをもって目標を設定し、学年末にはこれまでの成長を振り返り、次学年につなげることができるようにする。その際に、キャリアパスポートを用いることで、自らの成長を1年間を通して見返したり、経年比較したりできるようにする。題材の特色とし

表1 実証授業IとIIに関連する各教科等

時期	学級活動	児童会・学校行事	道徳	教科
4月	(3)ア 目指す5年生に向けて目標を決めよう			
5月				
6月	(1)ア 野外活動に向けてめあてを決めよう			
7月	(2)イ 協力することの大切さを考えよう	野外活動(主体的に体験活動を行い、友達と協力し合う態度を育てる)		
9月	(3)イ 縦割り活動のリーダーについて考えよう	運動会(高学年として種目や係の運営)		
10月		ロング児童集会(5年生が企画・集会の運営)		

<国語>「よりよい学校生活のために」(自分たちが考えるよりよい学校生活について話し合う)

て、5年生であれば6年生をモデルにして目指す姿を決めるなど他学年とのつながりが見える題材や、発達段階に応じた社会参画との関わりが深い題材を設定した。題材については、各学年の担任、当該学年の前担任と打合せを行い、各学年の学習内容や活動、学年間のつながりについて意見を出し合い、その都度題材一覧表の付加・修正を行った。この

表2 学級活動(3)の題材一覧表(第5学年の部分を抜粋)

学校重点目標		目標に向かって意欲的に挑戦し、共に高め合う児童の育成				
目指す姿		児童一人一人が目標や夢をもち、今できることに全力を尽くし、何事にも挑戦していく向上心と意欲をもった児童				
5年生のキャリア発達目標		○自分の長所や短所を理解し、自分らしさを発揮し、自分で考え行動することができる。(自己理解・自己管理能力)				
		○社会生活には色々な役割があることや日々の大切さを理解し、仕事における役割の関連性に気付くことができる。(キャリアプランニング能力)				
	4月	5月	9月	11月	12月	3月
題材	ア 目指す5年生に向けて目標を決めよう	イ 委員会活動の取り組み方を考えよう	エ 縦割り活動のリーダーについて考えよう	ウ 読書計画を立てよう	ウ 進んで取り組む自主学習	ア 6年生に向けて
ねらい	目指す5年生に向けて自分のよさを生かして目標を決めることができる。	委員会活動の意義や役割を理解し、進んで働く態度を身に付け、これから実践することを決めることができる。	6年生の動きから、縦割り活動のリーダーとして大切なことを考え、めあてを決めることができる。	本の活用の仕方を知り、進んで読書に取り組むための目標を決めることができる。	学習する意味を考え、自己の将来とつなげ、よりよい家庭学習の仕方を考えることができる。	卒業式での自分たちの姿を考え、最上級生に向けての自覚を高め、これから実践することを決めることができる。
関連	<道徳>いつも全力で(A5 希望と勇気、努力と強い意志) <学級活動(1)ア>議題:野外活動に向けてめあてを決めよう <学校行事>野外活動	<国語>みんなが過ごしやすい町へ <道徳>かてしたヒマワリ(C16 よりよい学校生活、集団生活の充実) <学級活動(1)イ>議題:委員会活動を見直そう	<国語>よりよい学校生活のために <学級活動(2)イ>題材:協力することの大切さを考えよう <学校行事>運動会 <児童会>ロング児童集会	<国語> ・新聞を読む ・この本、おすすめします <社会>未来とつながる情報 <児童会>読書週間	<国語>伝わる表現を選ぼう <道徳>感動したこと、それがぼくの作品(A4 個性の伸長) <学級活動(2)ア>題材:冬休みのくらし	<総合>将来の自分を見つめて <道徳>バトンをつなげ(C16 よりよい学校生活、集団生活の充実) <児童会>お別れ集会 <学校行事>卒業式
事前	○6年生をモデルとして提示	○6年生の運動会での姿(練習姿)をモデルとして観察	○縦割り活動のリーダーとしての意義の確認	○これまでの読書への取り組み方を振り返るアンケート	○6年生の自主学習ノートモデルとして観察	○6年生の卒業に向けての姿をモデルとして観察
本時	○学級目標から目指す姿を具体化 ○どんな5年生を目指すか、そのために何をするかを自分のよさを生かして意思決定 ○4年生までの成長をキャリアパスポートで確認する。	○委員会活動の意義や役割の確認 ○これからの委員会活動で実践していくことを意思決定 ○委員会活動で実践	○縦割り活動のリーダーになるためにこれから実践することを意思決定	○いろいろな本を読むことの大切さの理解 ○どんな本を読みたいか、紹介する本を意思決定	○6年生にこれからの学習のことをインタビュー ○これからの学習で取り組んでいいことを意思決定	○キャリアパスポートをもとに、5年間の成長の振り返り ○最上級生に向けて今から取り組むことを意思決定
事後	○日常の学習や委員会、学校行事等の中で実践 ★キャリアパスポート	○委員会活動で実践	○縦割り活動やロング児童集会に向けて実践	★読書がんばりカードを使った振り返り	○日々の学習や冬休みの学習で実践	○日常の学習や委員会、学校行事等の中で実践 ★キャリアパスポート

のような過程を経て、6年間のキャリア発達を見通す題材一覧表を作成した(表2)。

(イ) 問題意識が持続する学級活動(3)の学習過程

事前の活動では、題材への問題意識を高めるために、前学年や関連教科等とのつながりを意識して成長を振り返れるようにキャリアパスポートを活用したり自分や学級の現状を理解できるようにアンケートを準備したりこれからの目指す姿を見通せるように目指す姿のモデルを提示したりする。

本時の活動では、児童が自分のよさや伸ばしたいところを確認して意思決定することができるように、キャリア教育アンケートを活用する。キャリア教育の四つの基礎的・汎用的能力を児童が理解しやすいように、「かかわる力」、「のりこえる力」、「よりよくする力」、「いかす力」の言葉で整理し、細分化した合計12の項目も児童が分かりやすい言葉で整理する。その中から自分のよさや伸ばしたいところを見つけ、それらを生かした自分に合った具体的な行動目標を意思決定できるようにする。

事後の活動では、児童の問題意識が持続するように、実践の途中で相互評価と目標の付加・修正を行う時間を設定する。相互評価では、互いに高め合っているように、課題ではなくよさや成果を中心に認め合う。その相互評価を基に目標の付加・修正をして、より自分に合った目標になるようにする。

(3) 研究の実際

ア 実証授業Iの実際と考察

学級活動(3)ア「目指す5年生に向けて目標を決めよう」の題材で実証授業を行った(図2)。題材設定においては、目指す5年生に向かって挑戦し続ける態度を身に付けることができるように、4年生までの成長と

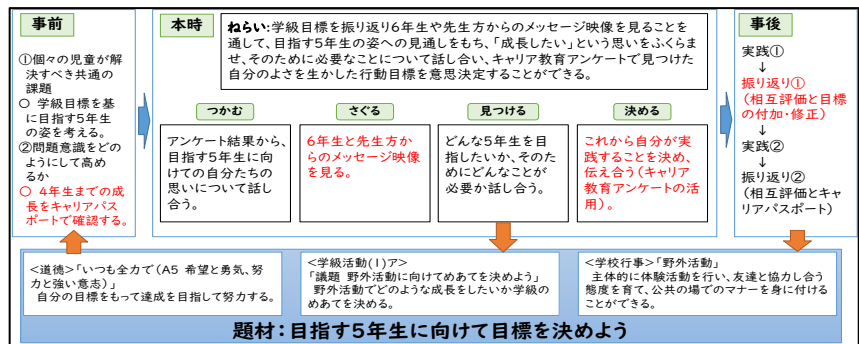
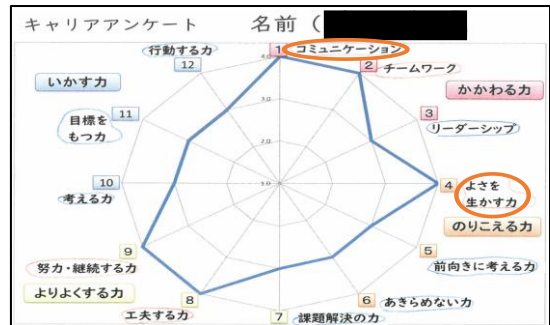


図2 問題意識が持続する実証授業Iの学習過程

今の自分をつないでこれからの自分の目標を意思決定する題材を設定した。事前の活動では、目指す5年生に向けての問題意識を高めることができるように、4年生までに書いたキャリアパスポートを見て、4年生までの成長や自分のよさを見つける時間を設定した。

本時の活動では、「さぐる」段階で、高学年として学校生活で意識することを探ることができるように、6年生と先生方からのメッセージ映像を視聴した。6年生が映像の中で述べた「あいさつ」や「掃除」、「登校時にリーダーとして引っぱること」に関する内容を参考に、5年生は何かできるのか考えることができた。「見つける」段階では、どんな5年生を目指していくのかを具体的に考えるために、学級目標を三つの要素に分けて、目指す姿のために何が必要か考える時間を設定した。「自分から行動」

や「ぼかぼか言葉を使う」、「男女関係なく声をかけ合う」などの目標がキャリア教育の基礎的・汎用的能力のどの力につながるのかを確認した。「決める」段階では、目指す5年生の姿に向けて自分のよさを生かして挑戦することを意思決定できるように、キャリア教育アンケートを用いて自分のよさや伸ばしたいところを見つける時間を設定した。自分の行動に自信がもてないことで悩んでいたA児は資料1のように、キャリア教育アンケートの「コミュニケーション」と「よさを生かす力」が自分のよさだと認識して印をつけ、そのよさを生かして意思決定していた。同様に、12名中10名の児童が自分のよさや伸ばしたいところを見つけて意思決定していた。



資料1 A児のキャリア教育アンケート

しかし、目指す姿に向けての必要な役割や態度を理解している児童は12名中3名であった。意思決定の内容も「手本になる」や「協力する」などの抽象的な内容の児童が半数であったことから、具体的な場面をイメージできていなかったと考える。

事後の活動では、児童の問題意識が持続するように、実践期間の途中で振り返りを設定した。意思決定した内容が抽象的であったため、具体的な行動目標で意思決定を修正することができるように、実践の場面や相手などの視点を示した。A児は最初、資料2のように「下級生の手本になる」という目標を立てていたが、前半の実践では、「具体的に何をすれば手本になるのかがよく分からない」という振り返りが見られた。そこで、下級生と関わる場面を想定するように助言したところ、あいさつ運動や清掃の時間に、下級生に具体的にどのような声かけをすればよいのかを考えており、行動の仕方を考えることができた。後半の実践を通して、具体的な場面で下級生と関わり、資料3の振り返りにあるように手本になったという自覚をもつことができた。同様に、自分たちの明確な目標設定や取組が学級の雰囲気や下級生の行動に影響を与えることを実感し、達成感を得ている児童が12名中11名であった。しかし、相互評価では友達のよさや頑張りを伝えていたが、相手の意思決定した目標に沿った内容の評価になっていない児童が多かった。

挑戦すること
コミュニケーションやよさを生かす力を生かして下級生のお手本になります。

↓

挑戦すること
コミュニケーションやよさを生かす力を生かして、具体的に何をすれば手本になるのかがよく分からないという振り返りが見られた。そこで、下級生と関わる場面を想定するように助言したところ、あいさつ運動や清掃の時間に、下級生に具体的にどのような声かけをすればよいのかを考えており、行動の仕方を考えることができた。

目標の付加・修正

資料2 A児の意思決定（前半と後半）

わたしは特に、そうじの時低学年が何をすればいいのかが分からない時にわたしたち5年生の指しかりができたし、**付加・修正した目標に対する振り返り**

いつも明るくてやさしい話しコミュニケーションが取れていたのはよかったと思います。これからも続けて低学年のお手本はかれるようにコミュニケーションをがんばってやっていきたい。 **挑戦し続ける姿**

資料3 A児の題材を通しての振り返り

実証授業Ⅰの成果として、目指す5年生に向けて目標を考える題材設定は、4年生までの成長を振り返り、これからの学校生活に対して具体的なイメージをもつことができた。また、本時でのキャリア教育アンケートの活用により、自分のよいところを見付け、目指す5年生に向けて自分に合った具体的な行動目標を意思決定することができた。事後の活動での目標を付加・修正する振り返りは、行動をさらに具体化して継続して取り組む姿につながった。課題は、より具体的な場面での目標設定することである。また、振り返りの相互評価において相手の行動目標を意識させる工夫が必要である。

イ 実証授業Ⅱの実際と考察

学級活動（3）イ「縦割り活動のリーダーについて考えよう」の題材で実証授業を行った（次頁図3）。題材設定においては、自分の役割を自覚し、他の児童と力を合わせて働くことの大切さや自分のよさを生かすことに気付くことができるように、6年生の姿を基に縦割り活動における5年生としての心構えや行動について考え、自分の目標を意思決定する題材を設定した。事前の活動では、縦割り活動のリーダーになるための問題意識を高めることができるように、高学年の役割や責任、意識に視点を当て、6年生を観察したりインタビューしたりする活動を設定した。

本時の活動では、「さぐる」段階で、高学年の役割や心構えについての意識をより高めることができ

るように、6年生の観察やインタビューを通して学んだ高学年としての役割や心構えなどを出し合った。「自分から動く」や「委員会で全体のことを考えた意見を言う」、「困っている人が笑顔になるように助ける」などの6年生の行動やよさを見つけていた。「見つける」段階では、縦割り活動のリーダーとしての高学年の役割や責任、やりがいを実感することができるように、これからやっていきたいことをグループで出し合う時間を設定した。グループからは「リーダーシップ」や「先のことを考える」、「自主的に行動」など、キーワードとなる言葉が出ていた。「決める」段階では、縦割り活動のリーダーに向けて、これまでの成長や目標とつなげてこれから自分が実践することを意思決定できるように、キャリア教育アンケートやキャリアパスポート、実証授業Iで決めた目指す姿から自分のよさや伸ばしたいところを見つめる時間を設定した。自分からなかなか挑戦できないことに悩んでいたB児は、実証授業Iで見つけた「行動する力」を引き続き伸ばそうと考えていた。また、実証授業Iで決めた「学校の副リーダーとして学校をよくするために、あいさつや掃除で手本になる」という目標につなげて、「低学年とふれあったり、委員会で学校全体のことを考えて行動したりする」と意思決定していた。同様に、全員の児童が自分のよさや伸ばしたいところを見つけて意思決定することができた。

事後の活動では、児童の問題意識が持続するように、実践期間の途中で振り返りを設定した。相互評価は縦割り活動のグループのメンバーで相手の目標を確認して振り返りをしたことで、全員が友達の目標に沿ったよさや頑張りを認める発言をすることができた。B児は資料4のように、「行動する力を生かして、低学年とたくさんふれあったりリーダーシップをとったりしたい」という目標を意思決定した。相互評価を通して、B児は友達から、「委員会で自分から意見を言っていた」や「児童会のあいさつ運動で前に立ってあいさつをしていた」という言葉ももらい、リーダーシップが発揮できていると自分の成長を実感していた。後半の目標では低学年との触れ合いに着目し、「低学年に自分から声をかけて遊んで6年生に近付けるようにする」と目標を修正した。後半の実践を通して、資料5のように下級生に自分から声をかけて関わり、これからも挑戦し続けたいと意欲を高めていた。

実証授業IIの成果として、縦割り活動における5年生としての心構えや行動について考える題材設定は、リーダーへの憧れや思いをさらに高め、6年生をモデルに具体的な目標を立てて自分の役割を自覚し、他の児童と力を合わせて働くことの大切さや自分のよさを生かすことに気付くことができた。また、相互評価を縦割り活動のメンバーにしたことで、相手のよさや目標に向けての頑張りを伝えることができ、そこで得た気付きや成長を次の目標の付加・修正に生かして、さらに意欲を高めて継続して取り組む姿につながった。

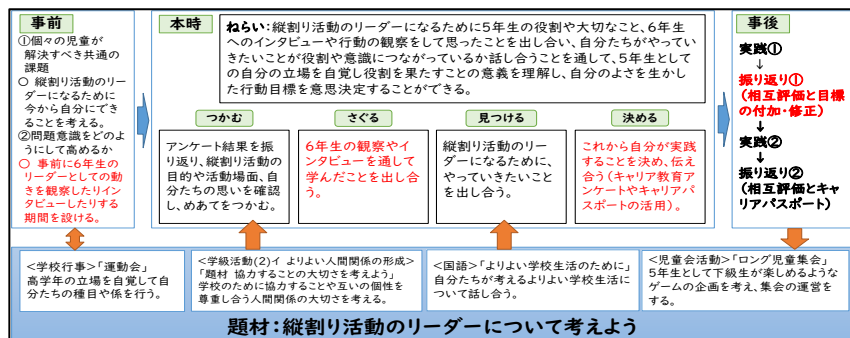


図3 問題意識が持続する実証授業IIの学習過程

図3 問題意識が持続する実証授業IIの学習過程

意思決定の内容

挑戦すること

行動する力を生かして、低学年とたくさんふれあったりリーダーシップをとったりしたいです。

↓

相互評価後の振り返り

私は思っていたよりもリーダーシップはとれていたのだから、これからは低学年とふれあうことを意識したいです。

↓

相互評価を通しての気付き

目標の付加・修正

挑戦すること

行動する力を生かして、低学年に自分から声をかけて遊んで6年生に近付けるようにする。

↓

相互評価を通しての気付きを付加・修正

資料4 B児の意思決定と振り返り

私は、6年生に近い5年生として、低学年に自分から声をかけられるようになったので、これからも低学年の人と、まじり合いながら、たよりいとして、低学年に話かけたりするように説明したり、声をかけて遊んだりできるようにしたいです。

縦割り活動のリーダーに向けて6年生により遊んで低学年との関わりを、やしていきたいです。

付加・修正した目標に対する振り返り

挑戦し続ける姿

資料5 B児の題材を通しての振り返り

(4) 全体考察

図4は、本研究で目指した資質・能力に対する、実証授業Ⅰ、Ⅱ後のワークシートや発言、行動の分析である。「知識・技能」については、目指す姿に向けて必要な役割や態度をワークシートに記述しているか、意思決定したことが行動に表れているかを分析した。行動目標と実際の行動が整合していない児童が数名いた。児童がさらに問題意識を持続するためには、日々の実践の中でさらに細かい指導・助言や、振り返りのワークシートを用いた指導の工夫が必要である。「思考・判断・表現」については、意思決定の内容と相互評価を通して付加・修正した目標を分析したところ、実証授業Ⅱでは全員が自分のよさや伸ばしたいところを見つけ、自分に合った具体的な目標を意思決定することができたことが分かる。「主体的に学習に取り組む態度」については、事後の行動の様子と振り返りの記述、相互評価での発言を中心に分析した。実証授業Ⅱでは、日々の振り返りにおいてできたことやできていないことを次に生かそうとする記述、相互評価で自分の行動の価値を自覚し、行動を強化したり付加・修正したりする記述が全員に見られた。日々の振り返りを生かして、他者の意見も取り入れて粘り強く実践することができたと考える。

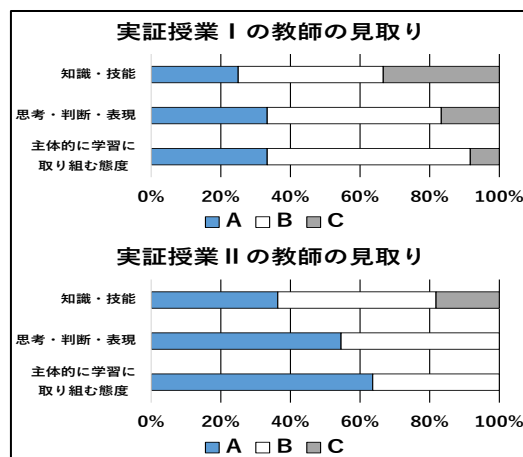


図4 実証授業ⅠとⅡの分析結果

「自分のよさを、行動する力を生かして学校の副リーダーになれるようにする」という目標に向け、学年をよくかんさして学年に近づけるようにし低学年との関わりもふえました。委員会でも、自分から行動できるようになれてよかったです。でもまた低学年との関わりや学年に近づくことも、また自分から行動できるところがあると思うので、次行とすればいいかなと考えて行動したいです。主体的に学習に取り組む態度

資料6 B児の実践後の振り返り

資料6は、B児の実践後の振り返りである。自分に合った具体的な目標を決め、行動の仕方を身に付け、問題意識を持続してこれからの実践の意欲が高まっていることが見て取れる。他の全ての児童にも、目標に向かって挑戦し続けた姿、これからも挑戦し続けたいという意欲を持った感想が見られた。

このことから、まず、重点目標と重視する基礎的・汎用的能力を基に題材を設定したことで、何を身に付けどのようなことができる児童にしたいのかを考えた系統的な指導が実現し、キャリア発達段階における目指す姿の育成につながったと考える。また、問題意識を高めるためのモデルの提示は、具体的にどのように行動すればよいかを想起させる点で有効であったと考える。キャリア教育アンケートを活用した意思決定、振り返りでの相互評価と目標の付加・修正が、自分に合った目標を意思決定し、さらに成長したいという思いをもって目標に向かって粘り強く取り組む姿につながったと考える。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- 6年間のキャリア発達を見通す題材設定は、育成する資質・能力を明確にし、各学年の発達段階に応じた系統的な指導、他学年とのつながりからの成長もあった。
- 事前の活動でのキャリアパスポートの活用やモデル提示等は、児童の問題意識を高めることにつながった。本時でのキャリア教育アンケートの活用は、自分のよさを生かした意思決定につながった。事後の活動で相互評価と目標の付加・修正をしたことは、自分の実践の価値付けとなり、自分に合った具体的な目標に向かい、問題意識を持続して粘り強く取り組む姿につながった。

イ 今後の課題

- 今回の研究では、検証の対象学年である第5学年を中心に題材設定の有効性を検証したので、他学年でも検証を進め、6年間のキャリア発達のつながりをさらに明らかにする。
- 今回の研究で整理した学級活動(3)のねらいやキャリア発達の段階性をもとに、キャリア教育全体計画のねらいや活動の段階性を再度確認し、キャリア教育を推進する。

〈参考文献〉

- ・ 文部科学省(2022) 『小学校キャリア教育の手引き (改訂版)』

○ 各段階での具体的な手立て

場面	実証授業Ⅰ	実証授業Ⅱ
事前の活動	目指す5年生に向けての問題意識を高めることができるように、4年生までに書いたキャリアパスポートを見て、これまでの成長や自分のよさを見つける時間を設定する。	目指す縦割り活動のリーダーになるための問題意識を高めることができるように、高学年の役割や責任、意識に視点を当てて6年生を観察したりインタビューしたりする機会を設定する。
本時「見つける」段階	目指す力をより明確にすることができるように、出てきた意見がキャリア教育の基礎的・汎用的能力のどの能力につながっているか確認する。	自分たちの役割や責任、やりがいを実感するために、自分たちの取組が「どんなことにつながっているか」と児童に問いかけ、思考ツールのYチャートを使って分類する時間を設定する。また、児童が観点の言葉を思い浮かべることができるように、事前アンケートの「6年生からしてもらってうれしかったこと」の内容を板書に示す。
本時「決める」段階	目指す5年生の姿に向けて自分のよさを生かして挑戦することを意思決定することができるように、キャリア教育アンケートを用いて自分のよさや伸ばしたいところを見つける時間を設定する。	縦割り活動のリーダーに向けて、これまでの成長や目標とつなげてこれから自分が実践することを意思決定することができるように、キャリア教育アンケートやキャリアパスポート、実証授業Ⅰで決めた目指す姿から自分のよさや伸ばしたいところを見つける時間を設定する。
事後の活動 相互評価	児童が目的意識をもって相互評価できるように、相互評価をするグループを目標が似た児童で編成する。	児童が目的意識をもって相互評価できるように、事前に児童に相互評価をするグループを自分たちの役割を視点に決めるように伝える。
事後の活動 目標の付加・修正	さらに自分が成長できる、あるいはより自分に合った行動目標になるように、変更したい児童がいる場合は付加・修正するように促す。	
事後の活動 振り返り	自分の目標や児童の成長が目指す5年生に向けての成長につながっていることの価値を実感させることができるように、教師からの励ましの言葉を送ったりキャリアパスポートにコメントを書いたりする。	自分の目標や自身の成長が、目指す縦割り活動のリーダーに向けての成長につながっていることや、自分では気付いていない価値を実感させることができるように、教師からの励ましの言葉を送ったりキャリアパスポートにコメントを書いたりする。

○ 相互評価と目標の付加・修正を位置付けたワークシート（実証授業Ⅱ）

<p>縦割り活動のリーダーについて 考えよう!</p> <p>名前 <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>前半</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 100px;">挑戦すること</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>◎○△</th> <th>振り返り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10/6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/14</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>友達との振り返りをして思ったこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 50px;"> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> </div>	日付	◎○△	振り返り	10/6			10/7			10/11			10/12			10/13			10/14			<p>後半</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 100px;">挑戦すること</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>◎○△</th> <th>振り返り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10/17</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/18</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/19</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/20</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/21</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10/24</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>友達との振り返りをして思ったこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 50px;"> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> </div>	日付	◎○△	振り返り	10/17			10/18			10/19			10/20			10/21			10/24		
日付	◎○△	振り返り																																									
10/6																																											
10/7																																											
10/11																																											
10/12																																											
10/13																																											
10/14																																											
日付	◎○△	振り返り																																									
10/17																																											
10/18																																											
10/19																																											
10/20																																											
10/21																																											
10/24																																											